

# 学園祭模擬店運営を通して「人間力」の3つの力を育てる

## — ディプロマポリシー達成のための試み —

三國 信夫

### 1. はじめに

本稿は、城西大学および城西短期大学の学園祭「高麗祭」に模擬店運営として参加した短期大学のゼミナール活動によって、ディプロマポリシーで期待される「人間力」がどのように育てられたのかについて報告するものである。当日の運営だけでなく、模擬店の決定や準備の過程を含めて、学生主体の活動がどのように学生自身の学びになったのか（あるいはならなかったのか）について検証を試みたい。

また、今年度の活動を振り返り、うまくいった点、改良すべき点をまとめることで、来年度以降の学園祭における模擬店運営等のゼミナール活動に役立てることを本稿は目指すものである。

### 2. 学園祭へのゼミナールでの参加

#### (1) 3年ぶりの高麗祭開催

2022年10月、城西大学および城西短期大学の学園祭である「高麗祭」(第55回)が3年ぶりに開催された。2019年の開催を最後に、その後は新型コロナウイルス感染症の流行により開催が中止されていたが、2022年には流行がいったん沈静化したこともあり、日程を3日間から2日間に短縮した形で開催されるに至った。

高麗祭は、学内の学生に対してだけでなく、近隣の地域の方々にも広く開かれた大きなイベントである。著名人の講演会や人気バンドのライブ、人気タレントのトークショーには、学外からも大勢の人が訪れていた。また、清光会館前で開催されている物産展は、城西大学・城西短期大学の父母後援会と同窓会によって運営され、高麗祭では毎年長い行列を作るほど人気を得ていた。さらには、高麗祭は、各サークルや研究室の展示発表や模擬店運営などの機会があることで、学生が主体的に参加できるイベントとしての性格も有していた。図書館前の通りは、両側に各団体が運営する模擬店が軒を連ね、にぎやかな学園祭らしい雰囲気のある場として最も華やいだ雰囲気を醸し出していた。

## (2) ゼミナールでの参加決定

3年振りのこの高麗祭に、短期大学の基礎ゼミナール（1年生、三國担当クラス）及びゼミナール（2年生、三國担当クラス）が参加を決めた経緯やその後の準備活動、そして当日の様子について振り返りたい。

前述の通り、高麗祭は2年間中止が続いていた。そのため、高麗祭を経験せずに卒業する学生（2020年入学の短大生）もあり、現在の在校生についても、学部4年生が入学時の1年生のときに開催されたのが最後であった。もちろん、2022年度が始まったときに、高麗祭を経験している短大生はいなかった。

したがって、2022年度に高麗祭の実施再開が決まった際には、高麗祭を実際に知る学生が少なかったことから、学生の参加が多くは見込めないのではないかという懸念があった。そこで、高麗祭実行委員会は一般学生の参加率を高めるために、ゼミナール単位での高麗祭への参加を呼びかける依頼状を各ゼミナール担当教員宛に送り、より多くの学生の参加を募った。そして第1回の全体会議を6月16日に開催することとし、参加を希望するゼミナールの代表者は必ずこの会議に出席するようにと宣伝した。

高麗祭実行委員会の呼びかけに応えるように、大学および短期大学の複数のゼミナールが参加の表明をしたが、三國ゼミもそのようなゼミナールの一つであった。筆者が参加表明を決めた背景には、コロナ禍のイベント中止が続き、また長くオンライン授業が続いたことなどで在学生たちの「学生らしい体験」が不足していたため、その「学生らしい体験」や「学生時代の思い出」を得るためにもゼミナール単位で高麗祭に関わるのがベストであると考えたこと、学外から多くの来客がある高麗祭に参加することで教室内では得られない体験ができるのではないかと考えたこと、地域と関わることで地域についての学びが深まること、ディプロマポリシーの「人間力」が模擬店運営活動を通して育つのではないかと考えたこと、ゼミナール生同士の親睦を深める良い機会になりうること、などの事情があった。

教室では、基礎ゼミナール（1年生）及びゼミナール（2年生）の学生に対して、上記の複数の理由をよりシンプルにして以下のように説明し、高麗祭へのゼミナール活動としての参加を伝えた。

「今年度は3年ぶりに高麗祭が開催されることとなりました。①教室だけではない、リアルなビジネスを学べること、②1つの目標を共有することで、ゼミ生同士の交流を深められること、③学生時代の思い出が作れること（場合によっては就職活動でアピールできること）、以上を理由に、ゼミナールの活動として高麗祭に参加したいと思います。」

筆者からの説明を聞いた学生からは、異論は出なかった。どちらかというイベントを楽しむ様子もあり、学生の合意を得ることができた。

### (3) ゼミナールごとの取り組み推移

次に、参加決定をしてからの、基礎ゼミナール（1年生）及びゼミナール（2年生）それぞれの取り組みについて説明したい。

#### ①基礎ゼミナール（1年生）の取り組み推移

1年生は入学してまだ2ヶ月しか経っていないこともあって、高麗祭への参加、ということもよくわからず戸惑っている様子も見られた。さらに、ゼミ生同士もまだ付き合いが短く、お互いの名前も覚えられていないことから、一つの目標に向かって頑張ろう、という雰囲気にもなりづらい状況であった。

そのため、まずはゼミ生同士の交流を活発にするために、教室の外に出てさまざまな課題をグループで取り組んでもらい、お互いのことを知る機会を増やし、少しずつチームとして参加する土台を形成していった。

その後、1人の男子学生が中心的な役割を担ってくれるようになった。高麗祭実行委員会から呼びかけられる全体会への出席も厭わず、他の学生の意見や希望を汲み取りながら準備を進めてくれた。



図1 1年生の試食会

模擬店で販売する商品については、学園祭の定番ということで当初は豚汁に決定したが、他の団体と品目が重なることから高麗祭実行委員会から変更を求められ、再検討することとなった。最終的には、肉うどんが選ばれた。肉うどんが地元埼玉県グルメであること、調理法が当初予定していた豚汁に近いこと、などを理由にして、数回の話し合いの結果、肉うどんが採用された。

模擬店での販売メニューが肉うどんに決まったものの、準備期間中お互いの関係性がなかなか深まらなかったことから、チームワークにも課題が残った。ただ、リーダー格の男子学生が中心となって、材料の選定、容器、調理法などを順次議題とし、話し合いの場が持たれた。

高麗祭の開催が2週間に迫ると、少しずつ関心を持つ学生も増えてきた。そこで、一度実際に肉うどんを作ってみようという学生の提案を受けて、試食会を開催することとなった。

試食会は、短大事務室横の給湯室を利用させてもらい、そこで出し汁を調理し、肉を味付け、うどんを茹でて、完成品まで仕上げる事ができた。肉うどんを目の当たりにし、実際に試食をしてみると、皆口々に「おいしい！」と歓声を上げていた。準備活動にも力



図2 試作した肉うどん

が一層入るようになっていたようであった。

肉うどんそのものの準備のほか、価格の設定や看板の作成、備品の準備など、次第にやるべきことが山積みであることに気がつき、みんなで協力して取り組まなければ当日に間に合いそうにないという認識ができてきた。その結果、消極的であった学生も、リーダー格の学生をはじめ積極的に動き始めていた他のメンバーに促される形で、少しずつ仕事に向き合うようになってくれた。



図3 ポスター製作



図4 肉うどん店舗風景

高麗祭当日は、予想しない事態となった。長蛇の列が模擬店の前にでき、調理現場はパニック気味になった。うどんを茹でるための熱湯がなかなか準備できなかったことに始まり、調理器具が足りずに一度に調理できる分量が少なかったことや、行列に対応できるほどの十分なスタッフがいなかったことなどから、当日対応していたメンバーは息をつく暇さえないほど忙しく働き通した。

ただ、そうした状況であったからこそ、予定では参加できなかった学生が急遽駆けつけてくれたり、午前中みのシフトであったメンバーが午後にも残って働いてくれたりするなど、ゼミ生の中に協力して難題に取り組もうという雰囲気ができてきたようでもあった。材料が途中でなくなり慌てて買い出しに急ぐなどしながらも、最終的には2日間とも見事に売り切ることができた。



図5 2年生の試食会

## ②ゼミナール（2年生）の取り組み推移

2年生は当初から少人数であり、さらに1年間のグループワークを中心としたゼミナール活動を通してお互いをよく知っていたこともあり、「協力する力」は十分に備えており、イベントに向けて力を合わせて取り組む土台もある程度できていたといえる。高麗祭に参加することが決定した後も、すぐにグループワークによって模擬店で

取り扱う商品についての話し合いが始まった。リーダー格の学生が全体を引っ張る形で運営されていた1年生とは異なり、中心となる存在が見えぬまま、グループによる運営で準備が進められた。

取り扱う商品は、複数の候補から、最後は学園祭の定番ということもあって「焼きそば」が選ばれた。



図6 焼きそば店舗風景



図7 調理風景

その後の準備の過程でも、2年生は、商品の試食、食材の調達、看板作り、当日の運営等すべてにおいて、誰かが強いリーダーシップを発揮するというのではなく、全体がチームとしてまとめ、順調に準備を進めていった。そのなかでも1人の女子学生が周囲に目配せをして、活動に消極的な学生を呼び出し、活動にみんなで協力して取り組む大切さを説くなどして、最終的に全員が協力する体制を作り出してくれた。

地域教育を深めるために、地域との関わりを取り込んだのが2年生であった。

焼きそばパンをあわせて販売するにあたり、そのパンを地域で手に入れようということとなった。川角駅前のベーカリー「サン・シロ」が全面的に協力してくれた。パンの仕入れの際には、複数のサンプルを譲っていただき、それを教室内において全員で試食し、焼きそばパンとして最もふさわしいパンを選定する作業も行なった。その後、価格の交渉、納品、支払いまで、複数回学生が「サン・シロ」に足を運び、その過程でベーカリービジネスにも触れることもできた。



図8 長蛇の列

1年生と同じように、2年生も実際に焼きそばを作り、試食をする機会を設けた。実際の商品を完成させたことで、学生のやる気はさらに高まったように見受けられた。

高麗祭当日は、これも1年生と同じように、お店の前には長蛇の列ができ、しかもそれが途切れることはなかった。材料がなくなることもあったが、交代で買い出しに行くなど、一致団結して難局を乗り切っていた。

もともと9人と少人数であった上に、当日は部活動で2人の学生が参加できなかったため、7人だけで対応しなければならなかったが、同じく高麗祭にゼミナール単位で参加していた経営学部3年生と4年生の三國ゼミの上級生たちに助けを乞い、やり繰りをしていた。想定外の困難にも、全員で知恵を出し合い、前を向き、考え、協力している姿勢は、後述するまさにディプロマポリシーが目指している理想像のように思えた。

焼きそばも、1年生と同じように2日間とも完売することができた。

### 3. 城西短期大学ビジネス総合学科のディプロマポリシー

#### (1) 人間力と「3つの力」

ディプロマポリシーとは、

「各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、

学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの」をいう。城西短期大学ビジネス総合学科では、このディプロマポリシーについて、以下のよう

に定めている。

ビジネス総合学科は、「自立した社会人として求められる人間力」を基本的学習成果と定めています。「人間力」とは、具体的には①前に踏み出す力、②考える力、③協力する力です。また本学科は、専門的学習成果を「職業人として活躍できる幅広い教養と、英語、情報、メディア、会計、販売、事務処理等のビジネススキル」と定めています。ビジネス総合学科は、学科の所定の単位を修得した人が、以下の能力・態度を身に付けていると判断し、短期大学士（ビジネス総合）の学位を授与します。

#### 城西短期大学ビジネス総合学科のディプロマポリシー

ビジネス総合学科のディプロマポリシーは、大きく「基本的学習成果」と「専門的学習成果」に分けられる。この「基本的学習成果」を形作るのが、「人間力」である。「人間力」は、「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」に分けられるが、これらは、2006年に経済産業省が提唱した「社会人基礎力」の「前に踏み出す力」「考え抜く力」



図9 ディプロマポリシー図（短大パンフレットより）

「チームで働く力」に対応して生み出されたものである。「社会人基礎力」とは、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力（＝3つの能力・12の能力要素）」として定義されたものである。

短期大学における基礎ゼミナール（1年生）及びゼミナール（2年生）は、共にコア科目（必修科目）に位置付けられており、短期大学における学習の基礎を築く場であるとされている。そこで、ゼミナールの活動を通してこの「人間力」をいかに身に付けるかが重要になってくることとなる。

## （2）ゼミナールにおける「3つの力」

筆者のゼミナールにおいては、どのような活動をする場合でも、学生に常にこの「人間力」と活動を関連づけることを意識してもらうようになってきた。具体的には、ピクトグラムで作成した「人間力」の図（図10）を教室のプロジェクターでスクリーンに投影し、ディプロマポリシーの理解、人間力の理解、取り組む活動が人間力の3つの力のうちどの力に関係しているの

かの理解を促してきた。学生は、ゼミナールで自分が取り組もうとしている活動が、「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」のうちどの力と関係しているのかを常に意識しながら授業に臨むようになった。今回の高麗祭への参加決定後の活動においても、一つ一つの活動がどの力に結びついているのかを意識してもらうようにした。

ゼミナールと「人間力」



図10 授業で掲示する「人間力」の図

#### 4. 人間力の「3つの力」はどのように身につけられたか

では、高麗祭に参加し、学生たちが模擬店を運営することにより、ディプロマポリシーの「3つの力」がどのようにして経験され、身につけられてきたのか。「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」それぞれの力ごとに分けて、学生の活動・行動を振り返り、検証したい。

##### (1) 「前に踏み出す力」 — 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力 —

社会人基礎力の「前に踏み出す力」は、「主体性」「働きかけ力」「実行力」の3つの能力要素から構成されている。「主体性」は物事に進んで取り組む力、「働きかけ力」は他人に働きかけ巻き込む力、「実行力」は目的を設定し確実に行動する力、と定義されている。「前に踏み出す力」が社会人基礎力として求められているのは、指示待ちにならず、一人称で物事を捉え、自ら行動できるようになることが求められているからである。これに照らして考えると、模擬店運営活動（準備から当日の運営、片付けまで）において観察された行動要素は以下のように分類できる。

表1 「前に踏み出す力」と実際の活動

力	要素	準備段階	当日運営・片付け
前に踏み出す力	主体性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んで仕事を探す。</li> <li>率先して会議に出席する。</li> <li>仕入れ先と価格交渉をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んで仕事を引き受ける。</li> <li>率先してお客さんに声をかける。</li> <li>周囲に気配りをする。</li> </ul>
	働きかけ力	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流のなかった仲間に声をかける。</li> <li>人に仕事を任せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人に仕事を頼む。</li> <li>人に仕事を任せる。</li> </ul>
	実行力	<ul style="list-style-type: none"> <li>段取りを決め、それを守る。</li> <li>準備を期日に間に合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>売り上げ目標に向け努力をする。</li> <li>店を効率よく運営する。</li> </ul>

## (2) 「考える力」 — 疑問を持ち、考え抜く力 —

社会人基礎力の「考え抜く力」は、「課題発見力」「計画力」「創造力」の3つの能力要素から構成されている。「課題発見力」は現状を分析し目的や課題を明らかにする力、「計画力」は課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、「創造力」は新しい価値を生み出す力、と定義されている。「考え抜く力」が社会人基礎力として求められているのは、論理的に答えを出すこと以上に、自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力が求められているからである。これに照らして考えると、模擬店運営活動（準備から当日の運営、片付けまで）において観察された行動要素は以下のように分類できる。

表2 「考える力」と実際の活動

力	要素	準備段階	当日運営・片付け
考える力 (考え抜く力)	課題 発見力	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な準備を調べて、整理する。</li> <li>想定されるトラブルへの対応を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オペレーションを修正する。</li> <li>たくさん売するための方策を考える。</li> <li>在庫管理をする。</li> </ul>
	働きか け力	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日の接客マニュアルを考える。</li> <li>当日のスタッフのシフトを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行列への対応を考える。</li> </ul>
	実行力	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果のある宣伝方法を考える。</li> <li>魅力的なデザインのポスターを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在庫を売り切るための方策を考える。</li> </ul>

## (3) 「協力する力」 — 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力 —

社会人基礎力の「チームで働く力」は、「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」の6つの能力要素から構成されている。「発信力」は自分の意見をわかりやすく伝える力、「傾聴力」は相手に意見を丁寧に聴く力、「柔軟性」は意見の違いや立場の違いを理解する力、「状況把握力」は自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力、「規律性」は社会のルールや人との約束を守る力、「ストレスコントロール力」はストレスの発生源に対応する力、と定義されている。「チームで働く力」が社会人基礎力として求められているのは、グループ内の協調性に留まらず、多様な人々との繋がりや協働を生み出す力が求められているからである。これに照らして考えると、模擬店運営活動（準備から当日の運営、片付けまで）において観察された行動要素は以下のように分類できる。



表 3 「協力する力」と実際の活動

力	要素	準備段階	当日運営・片付け
協力する力 (チームで働く力)	発信力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議で自分の意見を伝える。</li> <li>・自分の感情を冷静に周囲に伝える。</li> <li>・交渉する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づいたことを周囲に伝える。</li> <li>・感情を周囲に伝える。</li> <li>・お客さんに必要なことを伝える。</li> </ul>
	傾聴力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のメンバーの話をよく聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんの声に耳を傾ける。</li> <li>・お客さんをよく観察する。</li> </ul>
	柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なった意見にも耳を傾ける。</li> <li>・相手の立場になって考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんのクレームに対応する。</li> </ul>
	状況把握力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備状況を常に把握する。</li> <li>・メンバーの状況を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在庫状況などを把握する。</li> </ul>
	規律性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「報連相」を意識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「報連相」を意識する。</li> </ul>
	ストレスコントロール力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のメンバーの悩みを聞く。</li> <li>・休憩をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩をとる。</li> <li>・体調管理する。</li> <li>・他のメンバーに助けを求める。</li> <li>・他のメンバーを助ける。</li> </ul>

#### (4) 多様な活動・行動が「3つの力」を鍛える

以上のように、学園祭に向けての準備から当日の運営まで、学園祭の模擬店運営に関係する活動・行動は非常に多岐に渡り、それぞれの活動・行動が3つの力のいずれかに関係することがわかる。一つの活動・行動が、複数の力に関わることも多い。学園祭での模擬店運営は、教室での学習活動にはない、多様な経験を学生に得させる貴重な機会となっているといえる。そしてそれぞれの活動・行動を通して、3つの力が少しずつ身についていくことが期待されるといえる。

### 5. 高麗祭を振り返って — 2つの効果検証 —

#### (1) 学生アンケートから — 主観的な検証 —

約5ヶ月間の準備と当日の活動を経て、学生自身が「人間力」についてどのように考えているのか。3つの力がそれぞれ身についたと感じているのであろうか。その点について、まずは学生に対するアンケート（Microsoft Forms で作成）で得られた回答を見てみたい。学生の主

観的な側面から効果を検証する。

なお、アンケートには、基礎ゼミナール（1年生）14名位中12名、ゼミナール（2年生）9名中9名（全員）から回答を得られた（原文のままの引用のため、誤字脱字等はそのままにしてある）。

### ①「前に踏み出す力」

アンケートでは、以下の通りに質問した。

質問：高麗祭の模擬店運営（準備も含む）を通して、どのような「前に踏み出す力」が身についたと思いますか？具体的に説明してください。

学生の回答は、学年ごとに以下の通りである。

#### （1年生の回答）

- ・ 今回の経験で私は主にリーダーとしてチームを統率するための前に踏み出す力を身につけたと感じます。理由としては、中学・高校を通じ自分自身誰かの上に立ち牽引するという経験があまりなく、また自分自身人と話すのが苦手でした。しかし短大生となりその悩みを克服する過程において高麗祭でリーダーとしての経験は自分の駒を進めれた大きな進歩だと考えます。
- ・ 話し合いの時に意見を出すことができたので、躊躇なく発表できるような力が身についたと思う。
- ・ あまり苦手な接客を自分から話しかけて緊張したけど待たせた時間は長かったけどだんだん慣れていくうちに少しコミュニケーションができました。
- ・ 積極的に人に声をかけること、何が必要かを判断し行動すること。
- ・ 案を出したり変えた方がいい所を伝えたりできた。
- ・ 自分から考えて計画したり話しかけたりする力や協力する力。
- ・ 普段あまり話さない友達とも話さなければ出し物が成功しないので自分から積極的に話しかけました。
- ・ 何事にも成果をだすためには自分から積極的に行動しないといけないと思った。
- ・ 挑戦すること。
- ・ 自分から少し提案するなどできた。
- ・ 人とのコミュニケーションが取れないのでさり気ない気遣いを心がけました。
- ・ 普段から色々な人と話すことは好きなので、たくさんの人に積極的に話しかけた。

(2年生の回答)

<ul style="list-style-type: none"> <li>代表を務めたことで、ゼミの皆に呼びかけたり、他学年の方達と交流したりと、責任感を持って主体的に行動する力が身についたと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人数が少なかったため1人ひとりやるべきことを発見して行動するということが求められた。自分から行動することが身についた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>準備や本番でみんなで力を合わせられた為チームワークを身につけられたが、前に踏み出す力は身につけられていないと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>一から自分達で考えて何が必要かどうすれば良いかというのを考えて行動したこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から提案すること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>案を出したりすること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>当日参加できないから準備を積極的にやりいつもなら人に任せてしまったりするフライパンとか試食で必要なものを持って来たりしたこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から積極的に行動する事や、指示待ちするのではなく、自分でやる事を見つけて取り組むことが出来たこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>やったことないことやった。</li> </ul>

以上の回答からわかることは、対人関係を苦手としている場合でも、勇気を持って声をかけた経験から前に踏み出せたと思っている学生が多くいたということである。あまり話をしたことがないメンバーに対してであったり、商品を購入してくれたお客さんに対してであったり、声をかけ新たな対人関係を作り出すことができる機会が模擬店運営にはある。「前に踏み出す力」が鍛えられる機会が多くあったといえよう。

また、実際に商品を売り切らなければいけないという緊張感のある環境下では、自分の意見を周囲に伝える必要性を強く感じる場合が多く、前に踏み出しやすい状況になっていることも考えられる。

いずれにしても、前に踏み出す経験をした学生が多くいたことが学生のアンケートからもわかった。

②「考える力」

アンケートでは、以下の通りに質問した。

質問：高麗祭の模擬店運営（準備も含む）を通して、どのような「考える力」が身についたと思いますか？具体的に説明してください。

学生の回答は、学年ごとに以下の通りである。

## (1年生の回答)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の高麗祭を通じて、高麗祭の模擬店で何を出すか。またチームの士気を上げるにはどうするか、いざ本番の日はどうやって指示を出すかという観点において考える力は身についたと考えます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたら売れるかを多少なりとも考えることができたので、戦略を考える力が身についたと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたら早く出せるか、うどんも早く茹で上がる物を出したりしました。目に引くようなポスターを貼って書いて見たりもしました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何が必要かを状況判断する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・来てくれる人を喜ばせられることが出来るかを常に考えて準備などをしていた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様への配慮やゼミ生とのコミュニケーションなど。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのくらいの値段ならお手頃でみんなに買ってもらえるか皆で考え案をだした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を販売したら売れるのか、どのような宣伝をすれば客の目を引けるのかなどを考える力がついた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨機応変な対応はどうやってできるか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考えて行動することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想以上に売れていてアクシデントもあったけれど問題解決できたので色々みんなで考えて動けていたのでそこは考える力があつたと思います。</li> </ul>
<p>どのようにすればうまく店が回るかなどを考えていた。</p>

## (2年生の回答)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営するにあたって色々な課題や問題がありましたが、その度に逆算をして、無事に成功させるためには今何をすべきかをよく考え行動することで乗り越えていました。限られた時間で最も良い方法をよく考える力が身についたと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試食会で値段を決める際に思い切って値段を高く設定した。考える力かは分かりませんがそういう戦略もあるんだと考えさせられました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたら効率よく設営し、準備を進められるかを考えた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうすればお客様さんを惹きつけることができるのか、どうやったら効率よく物事を進められるのかということ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような屋台が必要があるか考えるちから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要と供給を考えた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備している時になにか手伝ったりすることは無いかと考えながら行動できました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な視点から見ることや、他の人の意見を聞いたりして様々な考え方があり自分との意見を比べる事が出来た。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どーやったら売れるか値段など考えた。</li> </ul>

以上の回答から考えると、商売に関して、頭を働かせる機会（もしくは頭を働かせざるを得ない機会）が多くあったようであった。実際にお客さんが目の前にいることから、教室内よりもはるかに緊張感を持って思考を働かせる必要があり、それが「考える力」の成長につながったことも考えられる。

### ③「協力する力」

アンケートでは、以下の通りに質問した。

質問：高麗祭の模擬店運営（準備も含む）を通して、どのような「協力する力」が身についたと思いますか？具体的に説明してください。

学生の回答は、学年ごとに以下の通りである。

#### （1年生の回答）

・ 今回の高麗祭を通じ、ポスター制作や試食会、本番での調理や会計などを行いチームでの協力する力が身についたなぁとは思いました。
・ もっと当事者意識をもって取り組むべきだったと思うので、あまり協力する力は得られなかった。
・ 調理担当の人と交代でやりながら他の人ともどう早く渡すのかも協力できた気がします。
・ 人の仕事も手伝う。
・ 準備とかでこういう風にした方がもっと良くなるとかお互いに言い合えた。
・ 言われなくても何をすればいいか自分から考えたりすること。
・ 店を開く準備や後片付け、うどんを煮るための水や具材など各自分担任して取り組めた。
・ 店を出すのに1人では時間も労力も足りないが協力して取り組むことによって効率よく進めることができるということがわかった。
・ 仲間や先生と何かをやり遂げること。
・ 周りとの協力しないといけないので身につきました。
・ 参加していない人もいたのでわかりません。
・ 私のゼミでは高麗祭に積極的に参加する者とそうでない者がはっきり分かれて決まっておき、集団でまとまってやりきれたとはいえなかった。その中で自分は二日間とも参加しやるべきことはやれていたと思う。協力する気持ちはあったがやりきれなかったと思う。

## (2年生の回答)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は zoom で話し合いを設けたりタイムスケジュールを作ったりして、計算が得意な人は会計に回ったり、車を持っている人は買い出しをしたり、当日来れない人は準備で沢山動いてくれたりと、それぞれ色々な形で参加し模擬店運営に携わっていたので、皆のために自分ができることに率先して回ることによって協力する力が身についたと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備や買い出しの時点で話し合い誰が何をやるかを決めてたので当日スムーズに作業することが出来た。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで手分けして食材を集めたり処理したこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・決して1人では出来ないで、各々作業を分担して効率よく準備をしていったこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが文化祭を成功させようとする協力する力がついたと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つのを完成させる。あるいは、達成させようという力。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試食会で必要なものを持ってきたり、積極的に焼きそばを炒めたりすることが出来ました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを取ることで普段話さない人とも気軽に話せるようになり、役割分担や当日の事などスムーズに出来たと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミに来て準備を皆でした。</li> </ul>

以上の回答から、商品を作る、商品を売る、という具体的で切迫した共通した目標があったことから、仲間と協力する必要性を強く感じ、実際に協力し合う行動をとった学生が多くいたことがわかる。自分1人で対応できる課題ではなく、みんなで対応しなければいけないといった厳しい環境が、一人一人の「協力する力」を伸ばすことに役立っているといえよう。

## ④一番成長できたこと

3つの力のほか、自身の成長についても尋ねた。アンケートでは、以下の通りに質問した。

質問：高麗祭の模擬店運営（準備も含む）を通して、自分が一番成長できたと思う点は、どのような点ですか？

学生の回答は、学年ごとに以下の通りである。

## (1年生の回答)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に成長したのは、対話力・主体性だと考えます。理由としては今回の高麗祭では自分自身リーダーとしてチームを引っ張る面、チームメンバーへ提案をし理解を得るという事をし無事に高麗祭を終えられた事。チームメンバーを統率的確に指示を出し自分自身で提案し会計・装飾・調理などをメンバーと協力し無事に高麗祭で成功できた事だと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体行動において報連相や当事者意識を持つことの必要性や大切を知ることができて成長したと思う。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>接客をあまりやったことがなく、自分自身苦手だったので高麗祭で少しだけ自分に自信がつきやってみて楽しかったです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を恥ずかしがらずにありのままに行動できた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミのみんなとより仲良くできたしひとをよろこばせるために色々動くのは楽しいというのが分かりました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なことに気を配りながら協力すること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>店を開くのは初めての経験で値段設定や何を出すかなど考えることが多かったので考える力が1番身についた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>片付けや食器洗いに積極的に取り組んだこと。元々片付けが苦手でありやっとなかったが、文化祭で後片付けをやってから自分の家でも皿洗いや自分の部屋の片付けをするようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨機応変な対応をすること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>協力する力です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>サボらずに2日間行けたことです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>普段あまり話さない人とも話せていい経験になった。</li> </ul>

(2年生の回答)

<ul style="list-style-type: none"> <li>どうしたら皆が積極的に運営に携わってくれるかを考えて、一人一人と関わって時には呼び出したり、連絡をしたりと、主体的に動くことで統率力が身についたことが一番成長出来たと思います。準備も含めて一人も欠けずにそれぞれ参加出来る範囲で関わってくれた事がとても嬉しかったです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2年の秋という短大生活の中で最後の方にやった行事ですがゼミの友達との交流も増えたとし経営の3.4年生、違うゼミの方とも交流する機会だったので楽しめました。全体的に自信がついたと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>色々話し合い実行するチームワークです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>宣伝用のポスターをゼミで活用してきたパワポ、Word等を用いてアレンジしながら制作できたこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで協力して文化祭を楽しく成功させたことです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>私は、部活等であまり参加できませんでしたが、あまり参加できない中でも、自分のできることを探し、参加したこと。自ら仕事を見つける力。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>いつもなら任せっきりとかにしてしまうけど進んで行くことが出来たところです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>以前は周りを見て自分から動く事があまりなかったけど、高麗祭を通して自分から意見を出したり行動できる力がついたと思った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティング的な部分を学べた。</li> </ul>

以上の回答からは、「協力」「みんなで」「実行」「自分から」「主体的」「考える」などの言葉

が多く見られるが、これらはまさに「人間力」の3つの力に関わるものである。学園祭の模擬店運営という活動を通して、「人間力」に関して成長を感じた学生が多くいることがわかる。ディプロマポリシーを達成するために、こうした活動が役に立つのではないかと思わせる回答になっている。

## (2) 社会人基礎力診断テスト — 客観的な検証 —

学生自身の振り返りによる主観的な検証だけでなく、より客観性を持った検証を試みたい。

一般社団法人「社会人基礎力協議会」が監修した「社会人基礎力診断テスト」は、受検者の社会人基礎力を測るものとして開発された。城西短期大学では、学生の学習効果を計測する客観的な指標として、3ヵ年にわたり受検を実施している。

この診断テストを受検すると、複数の指標について100点満点で点数がつけられる。高得点ほど評価が高いのはもちろんであるが、そうした評価だけでなく、学生一人ひとりに個別結果レポートとして、社会人基礎力を伸ばす学生生活のアドバイスや社会人基礎力を生かした就職活動のアドバイスが示される。

高麗祭に参加した基礎ゼミナール（三國ゼミ）に所属する14名の1年生は、入学直後の2022年6月に1回目の受検、そして2023年1月に2回目の受検をした。

一方で、ゼミナール（三國ゼミ）の所属する9名の2年生は、入学直後の2021年6月に1回目の受検、2022年1月に2回目の受検、そして2023年1月に3回目の受検をした。

それぞれ2022年10月に参加した高麗祭に向けた活動が、テスト結果に結びついたと考えられることから、受検生の平均点の変化から「人間力」の3つの力について考察してみたい。

### ①基礎ゼミナール（1年生）

図11からわかるように、すべての項目に関して数値の増加が見られた。もともと、2年生と比較しても平均点の数値は高くはなかったが、6ヶ月ですべての項目で成長が見られたことは嬉しいことである。

2022年7月から2023年1月までの7ヶ月のうち、4ヶ月間は高麗祭に向けた活動を行っていたことから、この活動が3つの力を含む「人間力」の育成に一定の効果を上げていることは言えるのではないだろうか。

筆者としては、「チームで働く力（協力する力）」の数値がこうした活動ではもっと大きくなってほしいと思うが、1年生を観察する限り、だいぶコミュニケーションが盛んになってきたとはいえ、2年生と比べてもまだ個々がバラバラに行動しているところがあり、この「チームで働く力（協力する力）」をより育てていくにはさらなるイベントやコミュニケーションの工夫を教員側で仕掛けていく必要があると感じられた。



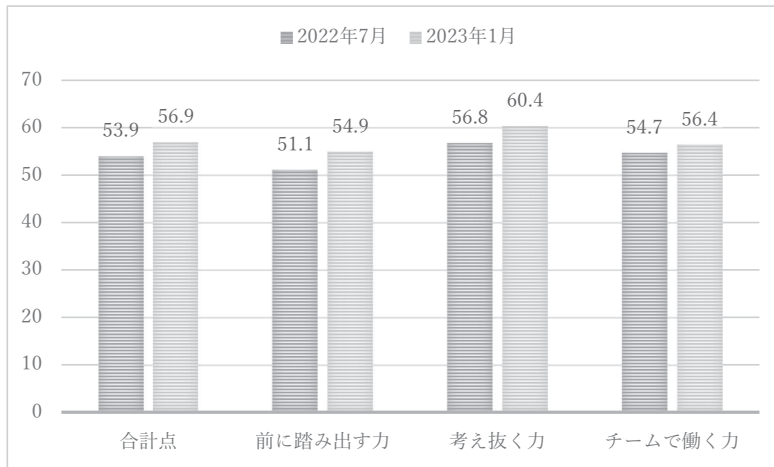


図 11 社会人基礎力診断テスト結果の推移（1年生）

## ②ゼミナール（2年生）

2年生は、図 12 で示しているように、入学直後の 2021 年 7 月に最初の受検をし、翌年 1 年生の終わりの 2022 年 1 月に 2 回目の受検、そして 2 年生の終わりの 2023 年 1 月に 3 回目の受検をした。

合計点及び「チームで働く力」の平均点は右肩上がりである。「前に踏み出す力」と「考える力」も、上がり下がりはそれぞれあるものの、入学時から卒業時に向けては、いずれの点数も上がっている。

2 回目と 3 回目との間に、高麗祭に向けた活動が入るが、その活動を経たことで「前に踏み出す力」は微減、「考え抜く力」は大きく増加、「チームで働く力」も微増、という結果になっている。もちろんこの期間には他の授業や日常生活での経験の影響もあることは否めないが、ゼミナールとして多くの時間を割いて高麗祭に向けて準備をしてきたことから、ゼミナールの活動が大きな影響を与えてきたと一面ではいうこともできるであろう。

その点では、特に、「考え抜く力」は 70 点を超える高い数値となった。2 回目と 3 回目の受検の間の模擬店運営活動が具体的にどの程度この数値に影響を与えたのかはわからない。ただ、「何を販売しようか」「いくらで販売しようか」「材料はどこで何をどのくらい仕入れようか」「調理法はどうしようか」「シフトはどうしようか」「利益の分配はどうしようか」など、模擬店を運営していく際には解決すべき課題・難題が常にあり、しかも一つ解決したかと思うとまた新たな課題が目の前に立ちはだかる日々が続く。学生はそうした課題と日々向き合い、考え続けることが求められていた。その結果から、「考え抜く力」が鍛えられたのではないかということとは合理的な範囲の推論であると思われる。

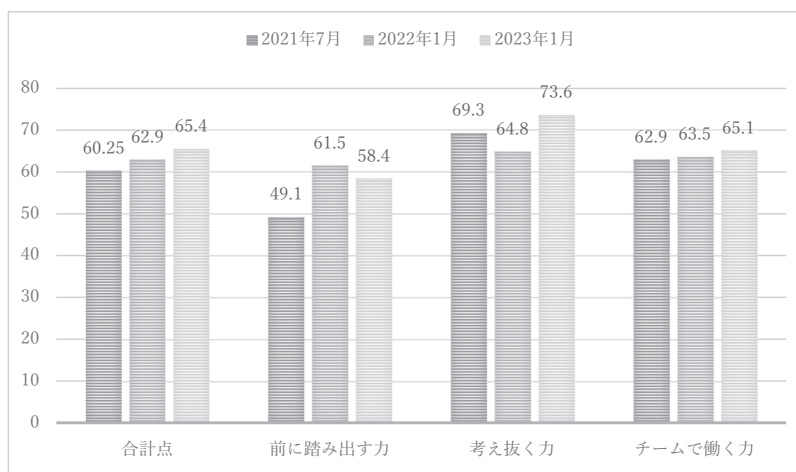


図 12 社会人基礎力診断テスト結果の推移（2年生）

## 5. 今後の活動に向けて

学園祭で模擬店を運営する。これだけのことではあるが、準備も含め、やるべきことは多岐に渡る。教室内でのシミュレーションではなく、学外からの来訪者とリアルなコミュニケーションを取り、金銭のやり取りもあることから、プレッシャーも大きい。そのような日常とは異なる環境下で、学生は仲間と協力し合う必要性を感じ、毎日悩み続け、そして新しいことにも挑み続ける。それはまさに短期大学がディプロマポリシーで求めている「人間力」そのものの働きであり、学生は経験を通して「人間力」を学び、身につけているといえるであろう。

筆者も、学生と伴走することで、学園祭に参加することの楽しさ、厳しさを、身をもって感じた。ただ、それだけではなく、学生の得られた体験の大きさ、貴重さも同じく感じた。

長い行列に戸惑いつつも、必死に焼きそばを炒め、うどんを茹でる学生たちの真剣な表情を思い浮かべながら、こうした活動の大いなる可能性を強く感じている。

もっとも、学生の学びを保証する点では、準備活動と3つの力をより密接に関連させて整理した方が、もっと学生の主体性を引き出せるかもしれない。そのような反省が、いくつかある。今回の活動をきっかけに、ぜひ次年度以降も高麗祭に関わり続け、方法の改善をしながら学生がより多くの「人間力」を身につけられるような機会を作りたいと考えている。改善すべき点を整理しきれないままではあるが、これで活動報告を終えたいと思う。

## 注

<sup>1</sup> 文部科学省『「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン』